

mgrin-snon-zla-bahi-rtogs-brjod の世界

金子英一

//byan-chub-kyi-sems-mñah-bahi-bya-mgrin-snon-zla-bahi-rtogs-brjod-pa-hkhor-ba-mthah-dag-la-shin-po-med-par-mthob-ba-nams-kyi-rna-rgyan-shes-bya-ba-shugs-so// 略名 mgrin-snon-zla-bahi-rtogs-brjod は stag-phu-ba-blo-bzani-bstan-pah--rgal-mshan の物語であるが、内容から説話に属するか、説教伝道物語等になるか、文学性も問題である。

簡単に全体をまとめると、主人公 chos-kyidgah-ba (dge-hdan-dban) 王子が、友人である大臣 la-ga-na にだまされ、鳥 mgrin-snon-zla-ba になり、その大臣が王子の身体に gron-hjug (入屍) した。鳥になった王子は bla-na-dri-med-dpal-ldan から教えと授記され、瑜伽女によってニセ王子と hod-ldan (以前に家来であった) の魂を入れ換わった。王子の身体には、三人が次々に乗り移つたわけである。鳥の時森で説法を多く為し、一度帰国したが、王子は鳥のまま最後に死ぬ。物語を進める上にも又、説法等の中に、三宝、菩提心、禅定、密咒等顕密両教にわたる語や、教説が述べられてゐる。特に las, smon-lam, gron-hjug などは、物語の展開に要点となつてゐる。今ここで種々の解明されるべき点が多くある中で、全体を統合して考えると考えられる授記説の一端を考察する。

授記 (Tuh-bstan) を与える者は、bla-na-dri-med-pa (hod-dpag-med) を中心に、観音菩薩 (phyan-ras-gzigs-dban) と ma-ti-ma-ha-ni (jo-mo-sgol-ma) の三人が、主に各種の異名や変幻した姿で授記をする。授記は未来成仏を予告するが、この物語の中では、現に主人公が生きている間の現在に近い未来と、死後及び仏の場合には未来次生の出来事を述べる時間的に二種にわけられる。前者、近い未来は、ストーリーをはごぶ為めに、王子の母 ma-ti-ma-ha-ni が大臣に「インドへ行け」。王に対して「王子が、王よ、あなたの王政を持つことは出来ない。」王子が妃に対し「(あなたと) 私は、この間に永く一緒にないけれども未来に二人は会うでしょう。」と語る。後者の死後の次生の授記であるが、物語の中で、現在在人(その他有情)の場合と、菩薩と、仏の場合との三つにわけられる。(A) 人の場合、死んでから ①人から人或は人から畜生、畜生から人と生れ変わる。chos-kyi-dgah-ba, la-ga-na 等は「大臣 la-ga-na も業の力で、その子に生れる。bu-rut-sul と云うあなたが彼を殺すので、法律を奪うあなたが罪になる。」「yam-se は畜生の四生を続けて、それによつて時に大臣 ku の名(になる)。ここでは過去よりの因果から人になつても、それが続き、又次生以後には人になり輪廻転生する。②転生を次々にくりかえし、未来に仏になる。「ye-ses-hdsin も ses-rab, hod……dri-med-bsoed-nams-kru-nas-dgan, rto-rje-riag-dban-blo-ldan-pa, hphrin-las-nibam-ma と云う名で利益を為す。未来に dri-med-mtshan-ma-dhan 如来に当成仏する。」等のこれは ye-ses-hdsin が、善業の人の連続として生れかわり、最後に如来になる。③ nharma の場合は死んで極楽浄土に生れる。④ ras-legs は持金剛に生れる。(B) 菩薩の場合、①本性が jo-mo-

sgrol-ma であり、現在、人 ma-ti-ma-ha-ni であつて、死んで未来に人の姿や空行として変幻する。瑜伽女 (Ku-nu-ku-sle) は、「nai-pa-ta 国に pañ-chen-rgya-ba-ded-dpon 或は sgan-mtshan-sva-ri-btsva' チベット国に prañadsha を得る者」と別々の場所で、別名で活動する。² ②義 (内容) に於て a-bhya-da-gi-rdo-rje-hsin に同じである。ma-śoka は初め sen-ge 王その他に生れ stobs-ldan-rgal-po, nam-ngah-lar-grags-bla-ma … rin-chen-ba-sod-nams-chos として最後に nams-par-gshon-pa 如来になる。義が菩薩と同じ人は、人から人に生れ、次々に生じ、最後に如来になる。³ ③観音菩薩は「チベットに rgyud-sron-bkahl-bisam-thugs-sgam-ches 王が現れ、又 khi-sron-sde 王があらわれ、インドの pañ-chen を招待する。私もそこに行く。チベットにすべれた lo-tshab が多く生れる。」と実在の王名人の姿になり、又変幻が主に述べられる。(C) 仏の場合 bla-ma-dri-med-bpal-ldan (ñod-dpang-med) 4 東に blo-gros-bzani-po (ñe-rin-po-che-son-kha-pa) 南に bso-d-nams-rin-chen (sgan-po-pa) 西に kun-dgah-rgyal-mtshan (sa-par) 北に ni-ma-hod-zer (pa-tshab-lo-tsatshaba と有名である) として未来に別々のラマ、偉大な宗教家の名で現われる。以上 (A) ①②③④ (B) ①②③④ (C) と区別される。(A) 人は輪廻転生すること、生れかわりの人名が並べられ、(B) 菩薩は、次々と化身する。その中に連続して生れ続ける者と、別の者 (有名な王等) とその菩薩名で変幻する場合がある。(C) 4 bla-ma-dri-med-bpal-ldan はラマや人の姿を取る。

先にストーリーの舞台となつてゐる所は va-ra-ra-si を中心とする諸都市で、名前からも、インドが舞台であると知られ、物語の中で現在の場合に、今生の所で活動する主人公王子や観音菩薩等が、

mgrin-shon-zla-bahi-riogs-brjod の世界 (金子)

次生に活動する場所、国を授記する。「雪山の山並で会う。」「雪山の山並に生を受けて rgyal-ba-rgya-mtsho の大臣になる。」「観世音は「北方チベットに仏の行為をする。」「北方雪山に化身が生れる。」「等雪山或はチベットと言つて、授記された未来の場所が示される。この様に授記として語られる中に、話を進める近い未来と、物語の舞台をインドからチベットに移し、他生や場所等を遠い未来で現わして、輪廻説から、特に転生を強調して、しかも、架空の者であり、実在であれ、人名を列記している。これは仏、菩薩の授記として、裏後から支えられたことが、同時に名前のついた人として、又仏菩薩の化身として、未来に現われる。逆説的ではあるが、転生者及び化身としてあらわれた者は、以前に仏から授記されたことがあつたからこそ、今現に顕われたのであるともうかがい得よう。そしてこの物語では、授記説が中心の柱になつて、輪廻転生及び転生化身が語られ展開され、内容世界が形成されたのである。

1 東洋文庫所蔵、一三三枚、壬生台舞著、河ロコトタン 著、就ウ、日本西藏学会会報二号、S. C. Das, Tibetan-English Dictionary 略表。

2 著者は stag-bhu の化身系譜に属してゐる。Klon-rdol-bla-ma-nag-dhan-blo-bzani 著 // bstan-hdsin-gyi-skye-bu-rgya-bod-dri-byon-pahi-min-gi-grans // 111 頁、東洋文庫 No. 343-255, No. 137-2051 東北 No. 6552。

3 J. W. Dejong 著、mi la ras pa'i rnam-thar. 八十九頁。

4 // rigs-bzan-gyi-mkhañ-hgro-ma-sa-hod-thbum-gyi-mam-thar // 119 頁、321 頁、712 頁、東大 No. 403。

5 全体は密教の蓮華部的世界と宗教体制等により統合されてゐる。